

令和 5 年 5 月 15 日現在

機関番号：33916

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K23271

研究課題名（和文）脳卒中患者を対象としたリハビリテーションへのモチベーションに関する研究

研究課題名（英文）The motivation for rehabilitation in patients with stroke.

研究代表者

吉田 太樹 (Yoshida, Taiki)

藤田医科大学・保健衛生学部・助教

研究者番号：90880823

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：回復期リハビリテーション病棟に入院している脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーションは、7つの外的な要因（患者目標、成功失敗体験、身体状況・認知機能、レジリエンス、リハビリテーション職種との関係性、患者関係、患者の支援者）から影響を受けていることが明らかとなった。また、高齢者では観察評価ではモチベーションの評価が困難である可能性が示唆された。モチベーションの経時的変化については、長期的な入院にてモチベーションが低下する傾向が確認された。また、モチベーションとアウトカムとの関連性については、リハビリテーションに対するモチベーションは直接的にFIMに影響しないことが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者自身の活動を治療的手段として用いているリハビリテーション医学において、活動量を左右するモチベーションに対する影響要因を明らかにできたことは、モチベーションが下がっている患者への支援方法を計画する際に有益な情報となる。本研究結果は、脳卒中患者の活動を促し、リハビリテーションの効果を高めるための知見を明らかにした、リハビリテーション医学の発展に寄与する成果であるといえる。

研究成果の概要（英文）：It has been revealed that the motivation of stroke patients undergoing rehabilitation on a convalescent rehabilitation ward is influenced by seven external factors: patient goals, success/failure experiences, physical condition/cognitive function, resilience, relationship with rehabilitation professionals, patient relationships, and patient supporters. In addition, it was suggested that the evaluation of motivation by observation may be difficult for elderly patients.

Regarding the temporal changes in motivation, a tendency for motivation to decrease during long-term hospitalization was confirmed. Furthermore, the relationship between motivation and outcome was investigated, and it was found that motivation for rehabilitation does not directly affect FIM.

研究分野：リハビリテーション医学

キーワード：脳卒中 モチベーション リハビリテーション 尺度開発 質的研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

リハビリテーションにおいて、患者は訓練に対して能動的な役割を担うことが期待され、訓練への積極的な参加が必要となる。モチベーションは脳卒中患者の身体活動を促進する要因であることが報告され、身体活動の増加に伴い、リハビリテーションのアウトカムが改善することについて多くの報告がなされている。しかしながら、リハビリテーションに対するモチベーションがどのような要因により影響を受けているのかは不明確であり、リハビリテーションに対するモチベーションとは何かというコンセンサスも得られていない。

リハビリテーションを実施している脳卒中患者のモチベーションがどのような要因から影響を受けているのか、また、モチベーションが患者の行動にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることでより効率的なリハビリテーション実践に繋がる可能性がある。

2. 研究の目的

モチベーションへの影響要因検討を実施し、リハビリテーションに対するモチベーションに特化した評価尺度を開発する。また、その評価尺度を用いてリハビリテーションに取り組む患者のモチベーションの傾向を明らかにし、リハビリテーションのアウトカムとモチベーションの関連性を検討し、より効率的なリハビリテーション実践の一助とすることを目的とした。

3. 研究の方法

第1から第5研究に渡る研究として実施し、本事業研究期間中には主に第3-5研究を実施した。

(1) 脳卒中患者のリハビリテーションへのモチベーションに関するシステマティックレビュー
3つのデータベースを用いて脳卒中患者におけるリハビリテーションに対するモチベーションに関する知見を整理した。

(2) 脳卒中患者のリハビリテーションへのモチベーションに対する影響要因に関する質的調査
脳卒中患者のリハビリテーションに関するモチベーションに影響を及ぼす因子は何か、また、モチベーションの状態による行動変容としては具体的にどのようなものが有るのかを半構造化面接とテーマ分析の手法を用いて検証した。

(3) モチベーション評価尺度開発

第2研究で得られた知見をもとに、脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーション評価尺度 (Motivation in stroke patients for rehabilitation scale: MORE scale) を開発し、尺度の特性を患者報告式アウトカム尺度の評価法 (COSMIN) の手順に沿って検証した。

(4) 回復期リハビリテーション病棟に入院する脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーションの傾向調査

回復期リハビリテーション病棟に入院し、包含基準に合致する脳卒中患者 201 名を対象として MORE scale を用いて、リハビリテーションに対するモチベーションを経時的に評価し、時期による変化を、線形混合効果モデルを用いて検証した。

(5) 回復期リハビリテーション病棟に入院する脳卒中患者のリハビリテーションのアウトカムとモチベーションの関連調査

回復期リハビリテーション病棟に入院し、包含基準に合致する脳卒中患者 201 名を対象として MORE scale を用いて評価した対象者のモチベーションの状態と、FIM を用いた評価したリハビリテーションアウトカムとの関連性を線形混合効果モデルを用いて検証した。

4. 研究成果

(1) 脳卒中患者のリハビリテーションへのモチベーションに関するシステマティックレビュー
1,930 論文の中から最終的には 13 論文が調査対象論文として抽出された。脳卒中患者のモチベーション評価には、リハビリテーションのモチベーションに特化していない尺度や医療者による観察評価が用いられていた。モチベーションとリハビリテーションの相互作用については、モチベーションに影響を与える要因、モチベーションが機能や活動に及ぼす影響について報告されていたが、報告の質・量共に不十分であることが明らかとなった。

(2) 脳卒中患者のリハビリテーションへのモチベーションに対する影響要因に関する質的調査
脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーションは7つの外的な要因 (患者目標、成功失敗体験、身体状況・認知機能、リジリエンス、リハビリテーション職種との関係性、患者関係、患者の支援者) から影響を受けていることが明らかとなった。また、高齢者では観察評価ではモチベーションの評価が困難である可能性が示唆された。

(3) モチベーション評価尺度開発

脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーション評価尺度 (Motivation in stroke patients for rehabilitation scale: MORE scale) を開発した。(図1) MORE scale はモチベーション低下が含まれる精神状態である抑うつやアパシーではなく、リハビリテーションに対するモチベーションの低下に特化して評価が出来る尺度であることが確認された。

Motivation in stroke patients for rehabilitation scale (MORE scale)							
	全く 当てはまらない	当てはまらない	やや 当てはまらない	どちらでもない	やや 当てはまる	当てはまる	非常に 当てはまる
1 退院後の目標に向けてリハビリテーションに取り組みたい。	1	2	3	4	5	6	7
2 自分が納得するまで体を良くしてから退院したい。	1	2	3	4	5	6	7
3 家庭や社会での役割に復帰するために訓練をしたい。	1	2	3	4	5	6	7
4 自分自身の目標は自分の頑張りで達成できる。	1	2	3	4	5	6	7
5 リハビリテーションの担当療法士の指導に応えたい。	1	2	3	4	5	6	7
6 リハビリテーションで行ったことを日常生活で応用させたい。	1	2	3	4	5	6	7
7 日々行っている訓練の目標は担当療法士と共有できていると感じる。	1	2	3	4	5	6	7
8 日々の訓練内容の変化にやりがいを感じる。	1	2	3	4	5	6	7
9 他の患者さんが頑張っている姿は自分自身の励みになる。	1	2	3	4	5	6	7
10 家族や友人のためにもリハビリテーションを頑張りたい。	1	2	3	4	5	6	7
11 自分自身の体(または動作)は日に日に良くなっている。	1	2	3	4	5	6	7
12 できなかった動作があると、それが出来るように訓練したい。	1	2	3	4	5	6	7
13 いろいろな課題・訓練に挑戦したい。	1	2	3	4	5	6	7
14 多少の疲れや痛みがあってもリハビリテーションは行いたい。	1	2	3	4	5	6	7
15 訓練時間以外にも自分なりに訓練の時間を作りたい。	1	2	3	4	5	6	7
16 毎日の訓練は自ら取り組む必要があると思う。	1	2	3	4	5	6	7
17 今回の病気や障害を改善させるためにはリハビリテーションが必要だ。	1	2	3	4	5	6	7

図 1 : Motivation in stroke patients for rehabilitation scale (MORE scale)

(4) 回復期リハビリテーション病棟に入院する脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーションの傾向調査

今回対象となった回復期リハビリテーション病院に入院し、リハビリテーション治療を行っている脳卒中患者では、長期的な入院にてモチベーションが低下する傾向が確認されるものの、入院期間中比較的高いモチベーションを維持している傾向が確認された。(図 2)

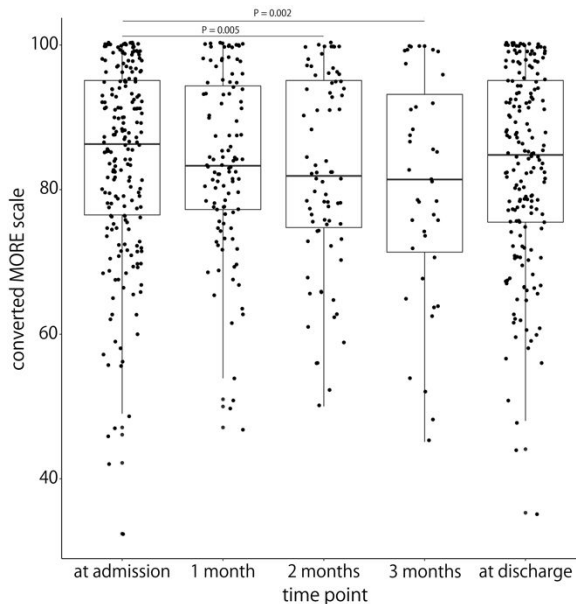


図 2 : 入院期間ごとの MORE scale 得点結果

(5) 回復期リハビリテーション病棟に入院する脳卒中患者のリハビリテーションのアウトカムとモチベーションの関連調査

入院中測定した MORE scale 得点と FIM effectiveness および efficiency にはいずれも統計学的に有意な相関関係はなく、リハビリテーションに対するモチベーションは直接的に FIM に影響しないことが明らかとなった。

以上の成果から、回復期リハビリテーション病棟に入院している比較的日常生活自立度が高い対象者では、長期的な入院によりモチベーションは下がるものの、比較的高いモチベーションを維持し続けていることが明らかとなった。また、モチベーションと FIM の改善度には直接的な関連性はないことが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Yoshida Taiki, Otaka Yohei, Osu Rieko, Kumagai Masashi, Kitamura Shin, Yaeda Jun	4. 巻 2
2. 論文標題 Motivation for Rehabilitation in Patients With Subacute Stroke: A Qualitative Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Rehabilitation Sciences	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/fresc.2021.664758	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yoshida Taiki, Otaka Yohei, Kitamura Shin, Ushizawa Kazuki, Kumagai Masashi, Kurihara Yuto, Yaeda Jun, Osu Rieko	4. 巻 17
2. 論文標題 Development and validation of new evaluation scale for measuring stroke patients' motivation for rehabilitation in rehabilitation wards	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0265214	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田 太樹、伊藤 大将、渡邊 翔太、大須 理英子、大高 洋平	4. 巻 39
2. 論文標題 脳卒中患者のリハビリテーションへのモチベーションに関するシステマティックレビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 作業療法	6. 最初と最後の頁 468～477
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32178/jotr.39.4_468	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉田 太樹、大高 洋平、熊谷 将志、北村 新、牛澤 一樹、大須 理英子
2. 発表標題 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーションの経時的変化
3. 学会等名 第58回日本リハビリテーション医学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田 太樹, 大高 洋平, 北村 新, 牛澤 一樹, 大須 理英子
2. 発表標題 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーション、抑うつ、アパシーとFIM改善の関係性 検討
3. 学会等名 第55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田 太樹, 大高 洋平, 北村 新, 栗原 勇人, 大須 理英子
2. 発表標題 リハビリテーションへのモチベーション評価尺度 (MORE scale) の尺度特性の検討
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉田 太樹, 大高 洋平, 熊谷 将志, 北村 新, 牛澤 一樹, 大須 理英子
2. 発表標題 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーションの経時的変化
3. 学会等名 第58回日本リハビリテーション学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田 太樹, 大高 洋平, 北村 新, 牛澤 一樹, 大須 理英子
2. 発表標題 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者のリハビリテーションに対するモチベーション、抑うつ、アパシーとFIM改善の関係性 検討
3. 学会等名 第55回日本作業療法学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------